

**needs** 手書きの作業日報記録を、簡単に自動データ化し、  
業務効率改善や、記録の有効活用につなげたい

## 町工場が作った町工場のための作業日報管理アプリ「スマファク!」

**会社概要**  
 会社名 : 株式会社サンコー技研  
 事業内容 : プレス加工受託  
 従業員数 : 30名 (2020年10月1日現在)  
 所在地 : 大阪府東大阪市玉串町東 3-5-38

**【お問合せ先】**  
 専務取締役 田中 敬  
 TEL:072-964-3204  
 E-mail:sanko-takashi@hct.zaq.ne.jp

**背景**  
 ・発注元メーカーから製造履歴（トレサビリティ）の厳しい記録管理が求められており、手書きによる作業日報の記録を行っていた。  
 ・手書きによる記録には、多くの人員と時間を要していた。また、データによる報告の要求が高まっており、転記作業が必要だった。  
 ・記録に用いる紙帳票類の保管にコストがかかっていた。  
 ・作業日報記録の有効活用ができておらず、作業工数データを業務改善に役立てることが難しかった。  
 ⇒作業記録の自動データ化を検討していたが、現場使い勝手のよい自動入力システムがなかった。

### IoTを活用した課題解決の内容

スマホとWi-Fi環境だけで、「いつ・誰が・何をした?」の作業記録が簡単にデータ化・見える化できるスマホアプリを開発。  
 現場目線に立ったバージョンアップを繰り返し、現場に掲示されたQRコードをスマホカメラで撮影するだけで、作業者は作業記録を完了することができる。また、作業工数データは蓄積されていくので、業務効率改善や課題の見える化につなげることができる。

・検討・開発期間 : 2年  
 ・開発者 : メーカーとの協業開発  
 ・開発コスト : 非公開

**課題**  
**〈業務効率〉**  
 作業日報の手書き記録や、記録内容のデータ化業務には、多くの手間と時間がかかっていた。  
**〈コスト〉**  
 紙帳票類の保管に、コストがかかっていた。  
**〈記録の有効活用〉**  
 作業記録が可視化されておらず、記録の有効活用が難しかった。



**解決方法**  
**現場で導入しやすい、現場で扱いやすい作業記録アプリを自社開発。**  
 ・スマホアプリで、各作業毎に設定されたQRコードを読み取るだけで、「いつ・誰が・何をした」を記録。記録はデータ化され、工場内全ての作業がリアルタイムでの「見える化」を実現。  
 ・データは蓄積され、CSV出力による報告や、分析による効率改善を可能に。

**特徴**

**超カンタン記録** 作業者はスマホでQRコードを撮影するだけ、ストレスフリー!

開始時 自分用のQRコードを撮影して ログイン

作業前 作業する機械・工程のQRコードを撮影して 作業開始

作業完了後 作業完了 ボタンを押すと 作業完了  
 必要の場合は生産数・ロット番号などを入力します

以上で、全てのデータが入力・記録されました

**超カンタン分析**

■ 作業日報記録  
 作業者毎に作業内容が記録されます。どの作業にどれだけ時間がかかっているか一目で把握することができます。

【例】  
 Aさん〇月〇日の作業日報記録

時間がかかりすぎた作業や、逆に時間がたりなかった作業を知ることができます。分析した作業日報記録から来期の計画を立てることにより、生産性の向上に繋がります。

日	名	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
1	プレスX社向け									
2	プレスY社向け									
3	検査Y社向け									
4	検査X社向け									
5	PC作業									
6	業者・電話対応									
7	技術開発									
8	修理・保守									
9	クレーム対応									
10	スキルアップ									

来期は技術開発 50時間に増やす目標  
 来期はクレーム対応 50時間に減らす目標  
 来期はスキルアップ 50時間に増やす目標

## 導入成果

**〈業務効率〉**  
 作業記録のデータ化により、3~4時間かかっていたトレサビリティ書類の作成を数分に短縮することができた。

**〈コスト〉**  
 作業記録のデータ化により紙帳票類の保管が不要になり、保管コストが0になった。

**〈記録の有効活用〉**  
 ・全作業員で毎日作業記録を共有することにより、各作業の標準時間の可視化や作業員間の競争意欲向上に繋がり、8%の作業時間短縮や、20%の製造数増加につながった。  
 ・蓄積した作業日報記録データを分析することで、業務改善や来期の計画策定が容易になり、生産性向上に繋がった。

## 成功したポイント

・アプリを自社開発し、現場目線に立ったバージョンアップを繰り返すことで、現場使い勝手のよいアプリにすることができた。  
 ・作業工数データのうち最重要である「いつ・誰が・何をした」を記録させることだけに特化したことで、作業改善に必要なデータを各作業・人員毎に入手でき、直ぐに対策改善活動に繋げることができた。

## 今後の展開予定

・自社現場での1年以上の運用実績と改善効果を受け、「町工場が作った町工場のための見える化アプリ」として、中小製造現場向けに1ユーザー：1,000円/1ヶ月でのサブスクリプション販売中。